東京大空襲・戦災資料センター　二〇一三年第二回特別展

東方社カメラマンがとらえた市民の暮らし

戦時下の日本・中国・東南アジア

記念講演会
8月3日 日
午後1時～

2013年
7月31日 水
～9月8日 日

《写真解説》 上から、フィリピン・マニラの露店（1943年）、日本・東京表参道での児童の駆け足（1942年）、日本・オフィスで働くタイピスト（1943年）、中国・武漢の復興祭（1945年）。

東京大空襲・戦災資料センター　２０１３年第２回特別展

東方社カメラマンがとらえた市民の暮らし

戦時下の日本・中国・東南アジア

展示期間　２０１３年
７月　３１日 水
～９月　８日 日

この展覧会は、前回の２０１２年の特別展で空襲写真を展示したのに引き続いて、東京大空襲・戦災資料センターに寄贈された東方社撮影写真のうち、市民の暮らしを撮った写真を紹介するものです。日本国内のものには、防空訓練や疎開など防空関係の写真、工場などの職場で働く労働者や動員された学徒や女性たち、労働者の余暇、子どもや青年たちの教育・訓練や奉仕活動、日本で学ぶ占領地からの留学生たち、芸能やスポーツ、戦時色が浸透していく街の暮らしなどがあります。日本支配下の占領地では、生業や宗教を含む住民の生活、学校での教育、日本の宣撫工作などとともに、抗日のスローガン・漫画も見られます。

東方社は陸軍の下で対外宣伝雑誌 『FRONT』などを編集・発行していました。その中で、日本が優れていることを強調し、アジアを支配することを正当化しようとしていました。市民を戦争に動員するために写真を利用していたのです。今回展示する写真も、多くはそのような宣伝のために撮影されたものですが、中には陸軍の思惑と異なる現実を伝えるものもあります。それらも含めて、展示した写真を批判的に読み解くことを通して、戦時下の日本とその占領地に暮らした市民の暮らしがどのようなものであったかを考えていただければ幸いです。

青山学院緑岡初等学校疎開学童の対面式（1944年8月）
静岡県田方郡上狩野村（現伊豆市）の湯ヶ島国民学校での地元児童と青山学院緑岡初等学校疎開学童との対面式。

中国桂林で演説をする少年と聴衆（1944年11月）
「復興隊」の腕章を巻いた少年が拳を振り上げて話しているが、右側に日本の軍人が見えており、この演説は日本軍の宣撫工作の一つと思われる。聴衆は、その服装からみて桂林周辺の少数民族であろう。

■　記　念　講　演　会　■

下記の通り、展示内容に関する記念講演会を開催します。
展示担当者が東方社の日本・中国・東南アジアの写真に関し、それぞれ解説を行います。

日　時
２０１３年８月３日(土)
午後１～４時（開場　12時）

会　場
東京大空襲・戦災資料センター２階会議室

講　師
井上祐子　東京大空襲・戦災資料センター主任研究員
　　京都外国語大学非常勤講師
山辺昌彦　東京大空襲・戦災資料センター主任研究員
小山　亮　明治大学大学院博士後期課程

定　員
当日先着50名様

■開館日
水曜日～日曜日

■開館時間
12時～午後4時まで

■休館日
月曜日・火曜日
※3月9・10日は曜日にかかわらず開館します

■協力費
一般　300円
中・高校生　200円
小学生以下　無料

The Center of the Tokyo Raids and War Damage

東京大空襲・戦災資料センター

136-0073 東京都江東区北砂1丁目5-4　http://www.tokyo-sensai.net/
TEL：03-5857-5631　FAX：03-5683-3326

この展覧会は「戦争末期の国策報道写真資料の歴史学的研究―国防写真隊と東方社を中心に」のテーマで、科学研究費助成事業「学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））」（２０１１～２０１３年度、課題番号23520853）を受けた共同研究の成果の一部です。